

志賀原子力発電所2号機 初臨界について

平成17年5月26日
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力135万8千キロワット）は、本年4月26日より5月6日にかけて燃料装荷を行い各種試験を続けてまいりましたが、本日11時28分、原子炉が臨界¹に達し、独立行政法人原子力安全基盤機構（JNES）の初臨界^{しよりんかい}確認検査に合格しました。

今後の試運転に係る主要な予定

- | | |
|-----------------------|------------|
| ・核加熱試験段階 ² | 平成17年5月下旬～ |
| ・負荷試験段階 ³ | 平成17年7月～ |
| ・営業運転開始 | 平成18年3月 |

以上

- 1：原子炉においてウラン235の核分裂が安定して連鎖的に継続する状態をいう。
- 2：原子炉を起動し、核分裂の熱によって原子炉の圧力、温度を定格値まで上昇させて、原子炉系の健全性、安全性を確認する。また、原子炉で発生した蒸気をタービンに送り、タービンの運転状態を確認する。
- 3：電気出力を20%、50%、75%、100%と順次上昇させながら、各出力段階で設備の調整・動作確認を行う。また、発電機の負荷が急に無くなった場合でも発電所が安全に停止することを確認する負荷遮断試験などを行ってプラントの安全性、制御性を確認する。